

32. ミナミキイロアザミウマによるトマト黄化えそウイルスの伝搬

野菜・茶業試験場

要 約

トマト、ピーマン、ダリアに対するミナミキイロアザミウムによるトマト黄化えそウイルス病の伝搬経路を明らかにした。

背景・目的

ミナミキイロアザミウムによるトマト黄化えそウイルスの伝搬は、沖縄のスイカで発生したスイカ灰色斑紋病で知られているが、従来から本州で発生が確認されているトマト・ピーマン・ダリアなどのトマト黄化えそウイルスについては明らかでない。そこで、三重県安濃町で採取したダリアのトマト黄化えそウイルス発病株から汁液接種または虫媒により発病させたピーマンなどを接種源に用いて、ミナミキイロアザミウムによる本ウイルスの伝搬を検討し、トマト黄化えそ病防除の基礎資料とする。

内容及び特徴

- (1) トマト黄化えそウイルスは、ミナミキイロアザミウムによってダリアからトマト・ピーマン・センニチコウへ、ピーマンからトマト・ピーマンへ、ダチュラからトマト・ピーマン・センニチコウへ、センニチコウからピーマンへ、それぞれ伝搬されることが明らかとなった。
- (2) これらの伝搬は、全体として61例の実験中11例で確認された。供試した接種源・検定植物の種類は限られているので単純には考察できないが、本種のトマト黄化えそウイルス伝搬能は、対照に用いたダイズウスイロアザミウム、ネギアザミウマの2種に比べかなり低かった。また、トマトはミナミキイロアザミウマの寄主植物とはされていないが、強制的に吸汁させるとトマトへも伝搬されることが確認された。
- (3) ミナミキイロアザミウムは、果菜類を中心に益々被害を拡大しているが、上記の結果から、吸汁による加害のみならず、従来から本州で発生がみられるトマト黄化えそ病の媒介虫としても、今後は注意する必要がある。

活用面と留意点

- (1) トマト黄化えそ病防除上の基礎的知見として公立試験研究機関への参考に供する。
- (2) 接種源植物一検定植物の組み合わせをかえて伝搬試験を行い、トマト黄化えそウイルスの伝染環解明のためのデータの蓄積が必要である。

キーワード

ウイルス伝搬、トマト黄化えそウイルス、ミナミキイロアザミウム

(田中 清)

ミナミキイロアザミウマによるトマト黄化えそウイルスの伝般¹⁾

接種源植物	獲得吸汁期間	成虫羽化までの日数 ²⁾	検定植物	接種虫数	接種期間	発病株数 / 検定株数
ダリア	3日	10日	センニチコウ	16	3日	2 / 2
	20 ³⁾	20	ピーマン	33	3	3 / 3
	2	10	トマト	30	3	1 / 3
ピーマン	2	13	トマト	20	3	1 / 2
	2	8	ピーマン	11	3	1 / 3
ダチュラ	2	9	センニチコウ	10	3	2 / 2
	2	13	トマト	8	3	1 / 2
	2	9	ピーマン	25	3	1 / 3
センニチコウ	2	9	ピーマン	20	4	1 / 2

注) 1) 伝搬の確認された試験例のうちから代表的な成績のみを記載

2) 獲得吸汁開始日からの日数

3) 鉢植えの罹病株で1世代を飼育